

第6回「公共交通機関等におけるベビーカー利用に関する協議会」 議事概要

日時：平成27年11月16日（月）13：30～15：00

場所：中央合同庁舎3号館4階 特別会議室

議題：・ベビーカーをめぐる状況について（報告）

- ・公共交通機関におけるベビーカー利用について
- ・ベビーカー利用円滑化に向けた今後の取り組みについて
- ・その他

松本安心生活政策課長・秋山座長の挨拶、各種資料の説明及び構成員（東日本旅客鉄道・東海旅客鉄道・西日本旅客鉄道・日本民営鉄道協会・日本地下鉄協会・日本バス協会・日本旅客船協会・ベビーカー安全協議会・せたがや子育てネット・びーのびーの・子育て応援とうきょう会議）からの取組み状況の報告等の後、意見交換が行われた。意見交換の場に出た主な意見は以下のとおり。

- 社会・地域として譲り合い支え合うことが重要。マナー向上は難しい課題だが、地道に継続的に行っていくことが重要。
- 地方ではノンステップバスの導入率がまだ低いので、車両の早期の低床化が必要。また、バスは車内での事故が多いので、安全のためにベビーカーを固定ベルトにしっかり装着してもらうよう周知を行っていただきたい。
- 周りの方に声をかける際の台詞集をつくってもらえると、声をかけやすくなる。
- こそだてモビのリンク先が現在ベビーカー安全協議会のみなので、他のリンク先が多くなると、使い勝手がよくなるのではないかと。また、トップページに子育てに関するイベントのリンクが増えれば、子育て中の方が、新しい情報を得やすくなるので、情報の集約が必要である。
- 子育て向けのイベント等を行うと、子育てバリアフリーに取り組んでいる企業やベビーカーで通過できる改札口、エレベーターやエスカレーターを設置場所など、ベビーカー使用者に対しての情報提供（ルート案内など）を充実してほしいという声を聞くことが多いので、検討していただきたい。
- 今後、ベビーカーマークに関するアンケート調査を行うが、認知度の上昇だけではなく、

正しい理解がされているかについて、注意すべきである。また車いすマークと並んで表示されていることが、トラブルの原因になっていないかなど、深掘りした理解度調査を行うと、よりベビーカーマークの普及につながる。

- ベビーカーマークの意味が正しく認知されないと、認知度が上がっても意味が無い。子育て中の方とそうでない方では普及啓発の機会が違う。子育て中の方には、乳幼児健診時など子育てと密接に連携した情報提供をすることが有効だが、子育て中でない方への普及啓発の方法は研究する必要がある。
- 子育て中以外の女性で40～50代の方はベビーカーを使って公共交通機関に乗っていない場合があるので、ベビーカーを経験していない人と同じという認識を持たなければいけない。
- 「イクジイ」など定年退職後の男性が、積極的に育児をしているので、彼らに向けた取り組みをするべき。
- 社会の変化やライフスタイルの変化に合わせた調査内容となるような検討も必要。
- 子育て中の方は入れ替わるので、単発ではなく継続していく必要がある。グッズや道具があると、大学の授業等での使用や全国に貸し出すなど、アクションがしやすくなる。
- 子育て経験者として、乳幼児検診の待ち時間にキャンペーンを行うと、お母さんや子育てに関わっている方たちに、より直接的に届くのではないか。
- 各地で実施されているバスや鉄道のイベントには子供連れの方の参加が多く、当協議会で作成されたチラシの配布を希望されたイベントもある。また、地方運輸局では毎年バリアフリー教室を実施されているので、教室や様々なイベントなども利用してキャンペーンを実施してはいかがか。
- キャンペーンについては様々なやり方があると思われる。マークの理解度、認知度については、正しく理解してもらうことが必要。